

200	ハンダク<半夏>	カラスビシャク	塊茎			<i>Pinedita ternata</i> (Thunb.) Bret.	Araceae サトイモ科	カラスビシャク	局方		含有量は0.002%と低い。ephedrineを含む。		Class 2b, 2d	A	劇薬。要指示医薬品。覚せい剤原料であるephedrineを含む。
201	ヒマシ抽	トウゴマ、ヒマ	種子油			<i>Ricinus communis</i> Linné	Euphorbiaceae トウダイグサ科	トウゴマ	局方	毒性タンパク質・ricin (LDLo = 0.3 mg/kg (man, oral); LD50 = 2 µg/kg (mouse, i.p.)) ヒマシジニアールカロイド: ricinine (LD50 = 25 mg/kg (mouse, subcutaneous))	Reproductive data of seed extract: TDLo = 400 mg/kg (rabbit, intramuscular); Extract: LD50 = 3g/kg (mouse, oral); LD50 = 340 mg/kg (mouse, i.p.)	Class 2b, 2d	A	原料の種子には毒薬相当のタンパク質ricinと同じく毒薬相当のアルカロイドricinineが含まれる。また、峻下薬であり、使用には注意が必要である。	
202	ビヤクダン<白芷>	ヨロイグサ	根			<i>Angelica dahurica</i> Benth. et Hook.	Umbelliferae セリ科	ヨロイグサ	局方			Class 1	B	局方に記載される重要な生薬であり、210処方でも使用されている。	
203	ビヤクジュツ<白朮>	オオバナオカラ、オカラ	根茎			① <i>Atractylodes ovata</i> DC. (= <i>A. macrocephala</i> Koidz.) ② <i>A. japonica</i> Koidz. ex Kitam.	Compositae キク科	①オオバナオカラ ②オカラ	局方			Class 1 (<i>A. macrocephala</i> Koidz.)	B	局方に記載されており、多数の処方処方に使用されるなどわが国では非常に重要な生薬である。	
204	ビヤクダン<白朮>	英名 white sandalwood	心材・油			<i>Santalum album</i> L.	Santalaceae ビヤクダン科	ビヤクダン	Com E		Sandalwood oils: LD50 = 5380 mg/kg (rat, oral)	Class 2d	A	副作用としての吐き気や腎臓の疼痛に対する禁忌が知られているため、使用には注意が必要である。	
205	ビヤクブ<百部>		肥大根			① <i>Stemona japonica</i> (Blume) Miq. ② <i>S. sessilifolia</i> (Miq.) Miq. ③ <i>S. ovata</i> Nak.	Stemonaceae ビヤクブ科	①ソルビヤクブ (ビヤクブ) ②オチビヤクブ ③トウビヤクブ	x	①Crude extract: TDLo = 20g/kg (mouse, subcutaneous)		A	スモナアルカロイドが含まれており、殺虫薬として用いられるものであるため、安全性に十分な配慮が必要である。		
206	ヒユカガトウキ		根			<i>Angelica furcifuga</i> Kitagawa	Umbelliferae セリ科	トウキとは同属植物であるが別種。分類学的にはトウキよりカワセンコに近い縁とされている。	x			D	様々な薬理作用が報告されている一方、安全性に関する情報が不足している。		
207	ヒヨス麻<天仙子>	ヒヨス 英名 henbane, henbell hogbean	種子・葉			① <i>Hyoscyamus niger</i> L. ② <i>H. aegyptius</i> ③ <i>H. muticus</i> ④ <i>H. albus</i>	Solanaceae ナス科	①ヒヨス ②シナヒヨス ③西ノキスターン セゾト ④地中海地方	Com E	(+)hyoscyamine i.v. mouse LD50 81 mg/kg. atropine reproductive effect: oral rat TDLo 437.5mg/kg; iw woman 26-39W preg TDLo 0.02mg/kg 莖性 oral human TDLo 0.033mg/kg. scopolamine ラット経口 LD50: 2650mg/kg、マウス経口 LD50: 1275mg/kg、マウス腹腔 LD50: 400mg/kg、マウス皮下 LD50: 1700mg/kg、マウス静注 LD50: 100mg/kg		A	劇薬相当のアルカロイドを含む。		

208	フクジュエウ	ガンジツジュウ、マンサク 英名@Amur Adonis	全草					①Adonis amurensis Regel et Radde ②A. vernalis	Ranunculaceae キンポウゲ科	①フクジュエウ ②セイヨウフクジュエウ	Com E	強心配糖体を含む Adonitoxin, LD50 (Katz): 0.19 mg/kg (i.v.), cyanarin, LD50 (Maus): 0.1 mg/kg (i.v.)	不詳	不詳	①Infusion human oral, 4.95 mL/kg cat LD100 k-strophantin ②1600mg/kg ③leaf extract i.v. guinea pig LD50 6.201mg/kg, oral cat LDLO 32.5 mg/kg	A	毒薬相当の強心配糖体を含む。名称をフクジュエウ風とすべきである。
209	フクジュエウ <依神木>	依神中に含まれた秋の シヨウ(Poria cocos (Fr.) Wolf)の胞子中に増生し て、未だ同化の完成しない もの。	菌核に含まれる 根						Polyporaceae サルノコシカケ科		* 中薬大辞典	不詳	不詳	不詳	D	成分情報が無い。	
210	フクジュエウ<覆盆子>	ゴシヨウイチゴ	未成熟集果					①Rubus chingii Hu ②R. Crataegifolius Bunge, R. corceanus Miq.	Rosaceae バラ科	①ゴシヨウイチゴ ②韓国産	○	同属のみあり	Class 2d (薬)	A	BSHに禁忌があり安全性に配慮が必要である。		
211	フクジュエウ<茯苓>	マツホト 英名 Poria Sclerotium	菌核					Poria cocos Wolf= (Pachyma hoelen, Rumph.)	Polyporaceae サルノコシカケ科	マツホト	処方		Danggui Shaoyao San (ブクリヨウ を含む生薬からなる) water extractsとして oral rat TDL01.4g/kg	B	局方に収載されており210処方中74処方を用いら れるなど医薬品として特に重要な生薬である。		
212	フクジュエウ<藤樹>		根茎					①Wistaria floribunda DC. ②W. sinensis Sweet.	Leguminosae ヤマ科	①フジ ②シナフジ	○	不詳	W. chinensis DC (植物のもの) i.p. mouse LD50 > 1g/kg	D	医薬品としての使用実態はあるが、成分情報がな く判断できない。		
213	フクジュエウ		全草					Asarum canadense Maxim. (= Japonasarinum canadense (Maxim.) Nakai)	Aristolochiaceae ウラボシ科	カモアオイ	用いられてい るとしても日 本の民間薬 だがNo.に近 い		Asarum heterotropoides FR. schmidt var mandshuricum, extract oral mouse LD50 1.0 g/kg i.p. mouse 330 mg/kg Asarum canadense var. reflexum extracts LDLO i.p. mouse 5mg/kg Asarum himalaicum Hook. F. et Thoms, extract oral mouse LD50 2.89g/kg, i.p. mouse 360 mg/kg Asarum ichangense C. Y. cheng ET C. S. yang, extract, LD50 oral mouse 5.15g/kg, i.p. mouse 330mg/kg	C	同属植物に腎障害を起こす aristolochic acidが含 まれており、安全性について、引き続き調査を 続ける必要がある。		
214	フクジュエウ	セイヨウイノキ 英名 alder buckthorn (R. frangula), buckthorn bark	樹皮					Rhamnus frangula L.	Rhamnacae クロウメモドキ科	フラングラ セイヨウイノキ	Com E	なし	Class 2b	A	蒸餾液のエモジン糖体を含む。使用禁忌も 多く、使用に関しては専門家の指示が必要と考 えられる。		
215	フクジュエウ	ヘラオモダカ <覆面草>	塊茎					Alisma cannalicatum A. Br. et Bouche	Alismataceae オモダカ科	ヘラオモダカ	* 中薬大辞典	Alisma platiago <LD50 > 1g/kg i.p. rat	A. orientale (Sam) Juzepczak は 2d	D	成分不詳で判断材料がない。		

216	ペラドンナ風	ペラドンナ	根				<i>Atropa</i> spp. 局方ペラドンナコン; <i>A. belladonna</i> Linne	Solanaceae ナス科	オオカミナスビ風	局方 Com E	atropine, hyoscyamine, tropine, apotropine, belladonnine, scopolamine, northioscyamine, noratropine, calystegin A3, cuscohygrine, (-)-hygrine	Class 3	A	ペラドンナ根、ペラドンナエキスを調製であること、 莖葉であり指定医薬品であるatropineを含むことか ら局方医薬品とするべきである。
217	ボウイ<附巴>	オオツツラフジ	根茎・つる性の 茎			<i>Stromonium acutum</i> Rehder et Wilson	Menispermaceae ツツラフジ科	局方	オオツツラフジ	局方	sinomenine, disinenine, sinactine, tudaranine, acutumine, sinacutine, N-demethyl-N-formyl dehydrocuciferine, magnoflorine, acutuyprocoline	A	A	局方収載生薬で漢方処方にも配合されており、ま たアルカロイド成分も含有しており、安全性に十分 な配慮が必要であることから局方医薬品と考えら れる。
218	ボウコン<茅根>	チガヤ、ビヤクボウコ ン	根茎			① <i>Imperata cylindrica</i> Beauvois ② <i>J. cylindrica</i> (L.) P. Beauv. var. <i>major</i> (Nees) C. E. Hubb.	Gramineae イネ科	局方	①チガヤ、茅根 ②白茅根	局方	なし(参考) Extract excluding root: LD50 1g/kg (mouse ip)	Class 1	A	局方収載生薬で、発育菌が寄生する可能性がある り、安全性に十分な配慮が必要であることから局方 医薬品と考えられる。
219	ボウセンカン<鳳仙花>		種子	種子以外は 「非医」		<i>Impatiens balsamina</i> L.	Balsaminaceae ツツアネソウ科	× 民間薬、中国 大辞典収載	ボウセンカ	× 民間薬、中国 大辞典収載	Extract: LD50 750mg/kg (mouse ip)	C	C	中薬大辞典に子宮収縮作用に関する記載がある が、CAにおいて学術論文としての報告がないた め、さらに調査を継続する必要があると考えられ る。
220	ボウビソウ<鳳尾草>	イノモトソウ	全草			<i>Pteris multifida</i> Poit.	Pteridaceae イノモトソウ科	× 民間薬、中国 大辞典収載	イノモトソウ	× 民間薬、中国 大辞典収載	Extract: LD50 >1g/kg (rat ip)	E	E	医薬品としての使用実績が乏しくLD50値並びに 含有成分等からも食源区分の見直し対象と成り得 る。ただし、発がん性のある成分 (paquiflorin) の 分解産物と考えられる成分 (pterostin) を含み、 かつptaquiflorinを含み可能性は否定できない。
221	ボウフウ<防風>		根・根茎			<i>Saposhnikovia divaricata</i> Schischkin	Umbelliferae セリ科	局方	ボウフウ	局方	Root: LD50 21.4mg/kg (mouse oral); carotatoxin LD50 100mg/kg (mouse parenteral)	A	A	御薬相当の成分 (carotatoxin) を含有しており、局 方医薬品と考えられる。
222	ボオウ<蒲黄>	ガマ、ヒメガマ	花粉	花粉以外は 「非医」、ヒメガマ 以外の花粉 は「非医」		① <i>Typha latifolia</i> L. ② <i>Typha angustata</i> Bory et Chaub. ③ <i>T. angustata</i> L., ④ <i>T. davidiana</i> Hand- Mazz., ⑤ <i>T. minima</i> Funk., ⑥ <i>T. orientalis</i> Presl	Typhaceae ガマ科	○ 一般薬	①ガマ ②ヒメガマ	○ 一般薬	② Extract: 250mg/kg (rat ip) (部位不詳)	C	C	医薬品の成分としては使用されているが、花粉に 関する直接的な毒性データが乏しいため、さら に調査を継続する必要があると考えられる。
223	ボタン<牡丹皮>		根皮	葉・花は「非 医」		<i>Paeonia officinalis</i> Andrews (= <i>P. moutan</i> Sims)	Paeoniaceae ボタン科	局方	ボタン	局方	Extract: micronucleus test 750mg/kg (mouse ip); cytogenic analysis 2g/kg (mouse ip); paenol LD50 490mg/kg (mouse oral); paenoflorin LD50 3530mg/kg (mouse ip)	Class 2b	A	局方収載生薬で多数の漢方処方に配合されてい る重要生薬であり、またBSEHに禁忌も記載されて おり、安全性に十分な配慮が必要であることから 局方医薬品と考えられる。
224	ボドワイラム	ヒマラヤハッカクレン 英名 mayapple root	根・根茎			① <i>Podophyllum peltatum</i> L. ② <i>P. hexandrum</i> Royle	Berberidaceae メギ科	Com E	①ボドワイラム・ ペルトナム ②ヒマラヤハッカ クレン	Com E	podophyllotoxin: LD50 100mg /kg (mouse po)	Class 2b, 3	A	御薬相当の成分 (podophyllotoxin) を含有して おり、局方医薬品と考えられる。ボドワイラムは ボドワイラム属に広く分布しているため、名称をボ ドワイラム属とすべきである。

225	マオウ<麻黄>		地上茎			① <i>Ephedra sinica</i> Stapf, ② <i>E. intermedia</i> Schrenk et C. A. Meyer, ③ <i>E. equisetina</i> Bunge	Ephedraceae マオウ科	①マオウ	局方 Com E	ephedrine, pseudoephedrine, norephedrin, ephedroxane, <i>N</i> -methylephedrine, <i>N</i> -methylpseudoephedrine	ephedrine (従来い菊 原料)	Extract (herba): LD50 3500mg/kg (rat oral), ephedrine: LD50 600mg/kg (rat po), pseudoephedrine: LD50 660mg /kg (rat po)	Class 2b, 2c, 2d	A	従来い菊原料であるアルカロイド (ephedrine) が 有されており、専ら医薬品と考えられる。
226	マクリ<麻入菴>		全葉			<i>Dryas simplex</i> (Wulfen) C. Agardh	Rhododolaceae アジマンモ科	カイニンソウ	局方	α -kainic acid (LD ₅₀ = 2.643 mg/kg (mouse, oral))			A	毒薬相当の毒性を持つ α -kainic acidを含むため、 専ら医薬品としておくべきである。	
227	マシニン<麻子仁>		発芽防止処 理されている 種子は 「非医」			<i>Cannabis sativa</i> L.	Cannabaceae or Cannabidaceae アサ科	アサ	局方 (14 局第一 追補)	ピロジンアルカロイドの trigonelline (LD ₅₀ = 5 g/kg (rat, oral))	Δ9- Tetrahydroc annabinol	急性毒性に関するデータなし。	A	発芽すると吐瀉作用のあるカンナビノイドを生産 するが、取り扱いに注意が必要であること及び 種子取出へのカンナビノイドの混入が得ること から、専ら医薬品としておくべきである。	
228	マチン属		種子			<i>Strychnos</i> L. (① <i>S. nux-vomica</i> L., ② <i>S. toxifera</i> Schomb. ex Benth., ③ <i>S. griseanensis</i> (Aubl.) Mart. など)	Loganiaceae マチン科	①マチン、ストリキ ニーネキ ②クラーレノキ	局方, Com E	<i>S. nux-vomica</i> L. 種子にはア ルカロイド 2.5% (strychnine, brucine, いすれも 1-1.4%, vomicine, α -columbine (11- methoxystrychnine), β - columbine (10- methoxystrychnine), pseudostrychnine, pseudobrucine, strauvine) が含 まれる。 Strychnine: LD50 = 2.35 mg bw (rat, oral), LD50 = 2 mg kg bw (mouse, oral)		A	<i>Strychnos nux-vomica</i> L. には毒薬相当の毒性を 持つstrychnineが含まれる。亦カ自身も毒薬相当 の毒性が、また <i>S. potatorum</i> の種子中のアルカロ イドにも毒薬相当の毒性が報告されている。		
229	マルバタバコ		葉			<i>Nicotiana glauca</i> L.	Solanaceae ナス科	マルバタバコ (ルズチカタバコ)		nicotine (LD50 = 3.3 mg/kg bw (mouse, oral), LD50 = 50 mg/kg bw (rat, oral)), normicotine, anabasine			A	毒性の高いアルカロイドであるnicotineの含量が高 く、葉を摂取すると中毒を引き起こす可能性があ る。	
230	マンケイシ<曼卿子>		果実			① <i>Vitex rotundifolia</i> L. fil. ② <i>V. trifolia</i> L.	Verbenaceae クマツツ科	①ハマゴウ ②ミツバハハゴウ	局外生規	アルカロイドvitricine (構造不 詳, C ₁₇ H ₂₁ NO ₂)		Seed extract of <i>V. trifolia</i> : LD ₅₀ > 1600 mg/kg bw (rat, oral)	同属の <i>V</i> . agmus- castus L. が 2b, 2d	B	局外生規と210方に記載されている重要生薬で あるため、専ら医薬品としておくことが望ましい。
231	マンドラゴラ属		根			<i>Mandragora</i> L. (① <i>M. officinarum</i> L., ② <i>M. autumnalis</i> Bertol. な ど)	Solanaceae ナス科			atropine, apatropine, scopolamine, hyoscyamine (LD ₅₀ = 95 mg/kg (mouse, i.v.)), belladonna, cuscohygrine, scopine			A	毒薬相当の毒性を持つhyoscyamineなどのトロパ ンアルカロイドを含むので、専ら医薬品としておく べきである。	
232	ミソカクシ<半边蓮>		全草			<i>Lobelia chinensis</i> Lour.	Campanulaceae キキョウ科	ミソカクシ(アゼム シロ)		lobeline (LD ₅₀ = 43.5 mg/kg (mouse, i.p.), LD ₅₀ = 35 mg/kg (rabbit, subcutaneous)), lobelanine, lobelanidine, isobolanine (= norlobelanine) 近年、ヒロリジンアルカロイド radicamine A, radicamine B が報告された。	同属植物 <i>L. pyramidalis</i> Desv., extract: LD50 = 750 mg/kg bw (mouse, i.p.) <i>L. inflata</i> L., 2b, 2d. <i>L. nivalis</i> L. (rat, oral) <i>L. siphilitica</i> L., 2b, 2d.	同属 L. inflata L., 2b, 2d. L. siphilitica L., 2b, 2d.	A	毒薬のlobelineを含むことが報告されている。ま た、同属の <i>L. inflata</i> L. に禁忌が報告されている。	
233	ミツモウカ<蜜蒙花>		花			<i>Buddleja officinalis</i> Maxim.	Buddleiaceae アジツク科	ワタアジツク				同属も花についてはデータが なし	E	抽出物の安全性を示すデータが無いが、構成 成分を考えると見直し対象となる可能性はある。	

234	ミミセンナ	英名: avaram, tanner's cassia	樹皮	<i>Cassia auriculata</i> L.	Leguminosae マメ科		x				Root extract: LD ₅₀ = 50 mg/kg (mouse, i.p.)	C	根に劇薬相当の毒性が確認されているものの、樹皮については毒性が認められていないため、劇薬が必要である。なお、他名等にカンタンアブアブがキョウチクトを混記すべきである。
235	ムイアブアマ	伯名: muira-puama	根以外は「非 医」	① <i>Psychopetalum olacoides</i> Benth. ② <i>P. uncinatum</i> Anselmino ③ <i>Liriosma ovata</i> Miers	Oleaceae ゴロゴロノキ科		O	① Com E	① かつて指摘されていた yohimbine-like alkaloids の含有は確認できない。 ② 1923年に報告されたアルカロイドの munitipamine はその後報告がない。		① Class 1	強壯成分は明らかになつていないが、国内外に使用実績があるので、専ら医薬品と考えられる。	
236	メナモミ	ツクシメナモミ	茎	① <i>Siegesbeckia pubescens</i> Mak. ② <i>Siegesbeckia orientalis</i> L.	Compositae キク科		x	① ナモミ ② ツクシメナモミ	No ただし、有小葉との混雑が赤松和漢薬、中薬大辞典にあり		E	医薬品としての使用実績が乏しく、含有成分から変異区分の見直し対象とみられると考えられるが、食品としての使用実績はない。	
237	モウオオレン <毛黄連>		ひげ根	① <i>Adonis szechuanensis</i> Franch. ② <i>Coptis japonica</i> Makino, <i>C. chinensis</i> Franchet, <i>C. deltoidea</i> C.Y. Cheng et Hsiao Xは: <i>teeta</i> Wallich	Ranunculaceae キンポウゲ科		① x ② ほとんど*	① 不明 ② オウレン(厚朴)と同じアルカロイドを含むのではないかと想像される。	不明		C	① フランジュウクと同属であり同一成分を含む可能性が認められるが、正確な成分情報がない。 ② オウレンの代用品と考えたとオウレンと同一成分を含む可能性が認められるが、正確な成分情報がない。	
238	モクノク<木賊>	トクサ 英名: scouring rush, rough horsetail, common scouring rush.	全草	<i>Equisetum hyemale</i> L. (日本野生植物図、小学館、朝日百科), <i>E. hyemale</i> var. <i>hyemale</i> (牧野), <i>E. hyemale</i> (中野大辞典)	Equisetaceae トクサ科		x	ただし難読、中薬大辞典にあり Com E では <i>E. arvense</i> (スギナ)	同属植物には nicotine を含む nicotine フラクト経口 LD50: 50mg/kg, フラクト経口 LD50: 14.56 mg/kg, フラクト経口 注 LD50: 2.5mg/kg, フラクト経口 注 LD50: 2.8 mg/kg, マウス 経口 LD50: 3.4 mg/kg The chemistry of alkaloids, I <i>E. arvense</i> Ohio plant: <i>E. hyemale</i> var. <i>affine</i> はアルカロイドは検出されないと記載あり。		C	アルカロイド含有の毒理、毒性情報も含まるに調査を続ける必要がある。	
239	モクツク<木通>	アケビツクソウ	つる性の茎	① <i>Mebbia quinata</i> Decaisne ② <i>A. trifoliata</i> Koizumi	Lardizabaceae アケビ科			局方			A	局方に多く、処方に配合される重要な医薬品であるとともに、劇薬相当の毒性データがある。	
240	モクベツジ<木賊子>	ナンバンベツジ<カラスウリ>	種子	<i>Momordica cochinchinensis</i> Sprenger	Cucurbitaceae ウリ科		x	モクベツジ	毒性タンパクであるリボソーム不活性化タンパク (Kareb) (ニガウリ)、ゴーヤ、Bitter melon) のデータが12件 <i>M. charantia</i> の seeds 中のタンパク (レクタチン) は、i.p. mouse LD50 3.16mg/kg; seed 石油エーテル抽出物、ベンゼン抽出物、アルコール抽出物 全て oral rat TDLO 8.75mg/kg; 種子由来強毒タンパク i.p. mouse TDLO 0.4mg/kg; fruits は oral rat で TDLO 1.12g/kg 他		A	毒性タンパクであるリボソーム不活性化タンパクを含む。	

241	モッコウ<木香>		根							モッコウ 唐木香	局方	不明		i.p. mouse LD50 >1g/kg	Class 1	A	局方収載生薬であり、アリストロキア酸を含有する青木香と混同される可能性がある。
242	モツヤクジュ 英名 myrrha, myrrh	全木							Com E		局方			Polysaccharides from <i>Commiphora myrrha</i> : i.p. rat LD50 175 mg/kg	Class 2b, 2d	A	子宮出血に禁忌など使用に細心の注意が必要。
243	ヤクチ<益智>	果実							局方		局方			Crude drug extract from <i>Alpinia oxyphylla</i> , DNA repair, <i>B. subtilis</i> 100g/L (Mutation Research 97, 81, 1982) 同属植物 <i>Alpinia officinarum</i> France, flavonoid ext, oral mouse LD50 2g/kg	A, golangal, A, officinarum はClass 1	B	局方に収載される重要生薬である。
244	ヤクモッコウ<益母草> メハジキ 英名 Chinese motherwort	全草							局外生薬 Com E	メハジキ	局外生薬 Com E			extract i.p. mouse LD50 200mg/kg; アルカロイド類のデータなし	Class 2b Leunurus b 2b	A	子宮収縮作用を持つアルカロイドを含む上、局外生薬に収載され漢方処方にも使用されるなど医薬品として重要な生薬である。
245	ヤブタバコ	果実							薬・根・葉は「非薬」	生薬名 藜蘆	x 中薬だが使用実態はほとんどない			extract, i.p. mouse, LD50 681mg/kg		E	医薬品としての使用実態がほとんどなく、見直しの対象となりうるが、食経験も知られていない。
246	ヤボランジ 英名 jaborandi	葉							x 南米民間薬	ピロカルピン、ベナチン、ピロカルピン	x			piilocarpine: LD50 402 mg/kg (rat oral)	2b	A	要指示医薬品に相当する成分 (piilocarpine) を含有しており、専ら医薬品と考えられる。
247	ヤランバ 英名 jalap	脂・根							x ヤランバ脂の原料植物	ヤランバ	x			同属植物 (<i>J. leari</i>) extract LD50 100mg/kg (mouse ip)	Class 3	A	アルカロイド等は含有していないが、ヤランバ脂は酸下剤として使用され、また同属植物エキスを副薬相当の毒性が報告されていることから、安全性に十分な配慮が必要であり、専ら医薬品と考えられる。
248	オオユキノハナ、ユキノハナ 英名 Snowdrop	鱗茎							x	ユキノハナ	x			galanthamine hydrobromide: LD50 19 mg/kg (mouse po)		A	<i>Galanthus</i> 属およびヒガンバナ科植物には毒薬相当のアルカロイド (galanthamine) を含有しており、安全性に十分な配慮が必要であることから専ら医薬品と考えられる。

249	ユキワリソウ	英名 American liverleaf, Liverwort	全草																Com Eにおいて本植物に含まれる protoanemoninが強い皮膚刺激性を有し、服用量を内服すると腎臓や泌尿器に刺激を与える恐れがあるとの記載があり、安全性に十分な配慮が必要であることから専ら医薬品と考えられる。
250	ヨウハンノヒ <梅梅樹皮>		樹皮																医薬品としての使用取扱いが乏しく、またアルカロイド等の問題となる成分は含有しておらず、同属植物の毒性データを考慮すると医薬品区分の見直し対象と成り得ると考えられる。
251	ヨヒンベ	英名 yohimbe	樹皮																劇薬相当の成分 (yohimbine) を含有しており、専ら医薬品と考えられる。
252	ラタニア	英名 Ratany root	根																我が国では医薬品としての実態はなく、またアルカロイド等の問題となる成分は含有していないことから医薬品区分の見直し対象と成り得ると考えられる。
253	ランソウ<蘭草>	フジスカマ	全草																ピペリジンおよびピロリジンアルカロイド成分を含有しており、安全性には十分な配慮が必要である。
254	リュウウタン<竜胆>	トウリンドウ、リンドウ 英名 Japanese gentian	根・根茎																局方収載生薬で漢方処方にも配合されており、重製生薬であることから専ら医薬品とすることが望ましい。
255	リュウノウ<竜胆>		樹皮																我が国では医薬品としての使用実態に乏しく、また含有成分の毒性も低いと考えられることから、医薬品区分の見直し対象と成り得る。ただし、食品としての使用実態もほとんどない。

256	リョウキョウ<良姜> コウリョウキョウ	根茎	<i>Alpinia officinarum</i> Hance Zingiberaceae シヨウガ科	局方(14局第一追加) Com E	局方(14局第一追加) Com E	flavonoid extract: LD50 > 2 g/kg bw (mouse, oral) 同属植物 <i>A. oxyphylla</i> Miquet; 果実=ヤク <i>A. nigra</i> Burt. <i>A. malaccensis</i> Rosc.: 特性は低い <i>A. galanga</i> Willd.: 根茎=ナンキョウ, 根(ノ)キョウ, 果実=コウズク(ノ非根), rhizome extract, LD50 = 188 mg/kg bw (mouse, i.p.) polysaccharides from rhizome water extract, TDLo = 10 mg/kg bw (mouse, i.p.) oil extract, LD50 = 670 mg/kg bw (guinea pig, i.p.)	Class I	B	局方と210処方に記載されている重要生薬であるため、単に医薬品としておくことが望ましい。コウリョウキョウは「非根」のナンキョウ(<i>A. galanga</i>)と考えられるので、「他名等」としておまわらなくない。	
257	レンギョウ<連翹>	果実	<i>Forsythia suspensa</i> Vahl <i>F. viridissima</i> Lindley Oleaceae モクセイ科	局方	局方	①レンギョウ ②シナレンギョウ	①Class 2b	A	局方収載の重要生薬であり、月経促進、子宮刺激などの作用が知られていて安全性に注意が必要である。	
258	ロウノホクカ<老白花>	樹皮・花	<i>Baninia variegata</i> L. Leguminosae マメ科 or Caesalpiniaceae シヤクソクイハク科	局方 CP未収載	老白花(中薬大辞典)ただし、部位は花のみ * 白花香藤甲(ノ)カヨウチコウ) 別に、老白花樹皮も収載 ネット上では植物和名、フイロソウカとなっている	不明	不明	C or D	生薬として入手可能であればC。	
259	ロクテイソウ<鹿藿草>	全草	<i>Pyrola</i> 属植物 一般には、 ① <i>P. rotundifolia</i> L. 日本産は、② <i>P. japonica</i> Klenze ③ <i>P. incarnata</i> Fisch ④ <i>Pyrola calliantha</i> H. Andres, <i>P. decorata</i> H. Andres (CP) Pyrolaceae イチヤクソウ科	局方 CP未収載	局方 CP未収載	①イチヤクソウ ②ヘニバナイチヤクソウ	不明	不明	E	医薬品としての使用実態が乏しく、問題となる成分が知られていない。
260	ロココン<藤根>	根茎	<i>Phragmites communis</i> Trin. <i>P. australis</i> Gramineae イネ科	局方 CP未収載	局方 CP未収載	アシ、ヨシ=葉、蘆	(indole alkaloids) gramine, N,N-dimethyltryptamine, bufonine, 5-methoxy-N-methyltryptamine	A	<i>Claviceps</i> 属菌類が感染しやすい、幻覚性を有するインドールアルカロイドを含有するとの報告もあり、安全性には十分な配慮が必要である。	
261	ロベリアソウ	全草	<i>Lobelia inflata</i> L. Campanulaceae キキョウ科	局方 CP未収載	局方 CP未収載	ロベリアソウ	(-) lobeline hydrochloride LD50 40mg/kg (mouse, ip)	Class 2b, 2d	A	罂粟相当のピペリンアルカロイド成分を含有しており、安全性には十分な配慮が必要である。

2. 動物由来物等

No.	名称	他名	薬用部位等	備考	学名	科名	基原動物科名等	医薬品としての使用状態	アルカロイド、毒薬刺激指定成分	麻薬・向精神薬・覚せい剤作用	毒性データ	B/S handbook	評価	評価理由
262	カイカジン<海狗腎>		陰莖・睾丸	骨格筋抽出物は「非医」	① <i>Callorhinus ursinus</i> Linné ② <i>Phoca vitulina</i> Linné	① Otariidae アシカ科 ② Phocidae アザラシ科	① オットセイ ② セニガタアザラシ	○					A	指定医薬品に相当する男性ホルモン androsterone を含有している。
263	ケツエキ<血液>		ヒト血液	ウシ・カンパウの血液・血漿は「非医」	<i>Homo sapiens</i> Linné	Homoniidae ヒト科	ヒト	○					A	特定生物由来製品であり、専ら医薬品として使用すべきである。
264	ゴウカイ	オオヤモリ	肉臓を除いた全身	ヤモリの全身は「非医」	<i>Gekko gecko</i> Linné	Gekkonidae ヤモリ科	オオヤモリ、トツアイ、トツケイヤモリ	○					E	医薬品としての使用実態はあるが、毒性の高い成分が含有されるとは考えられないため、見直しの対象とならざる。
265	コウカクベン<広海椒>	イス	陰莖・睾丸		<i>Canis familiaris</i> Linné	Canidae イヌ科	イエイス	○					A	雄の生殖腺であるから、指定医薬品に相当する男性ホルモン androsterone を含有している。他名等にボクシンキョウとクインランを追加すべきと考えられる。
266	ゴオウ<牛黄>	ウシ	胆嚢中の結石		<i>Bos taurus</i> Linné var. <i>domesticus</i> Gmelin	Bovidae ウシ科	ウシ	○					B	局方に収録されている重厚生薬であり、医薬品としての使用も多く、専ら医薬品にしておくべきである。
267	コソウ<虎骨>	トラ	骨格	ワシントン条約で輸入が禁止されている	<i>Panthera tigris</i> Linné	Felidae ネコ科	トラ	×			Root extract, LD ₅₀ = 50 mg/kg (mouse, i.p.)		-	ワシントン条約で輸入が禁止されており、評価の対象外である。
268	コツズ<骨髄>		ヒト骨髄	ウシ骨髄は「非医」	<i>Homo sapiens</i> Linné	Homoniidae ヒト科	ヒト	○					A	特定生物由来製品であり、専ら医薬品として使用すべきである。
269	ゴレイシ<五蓋脂>		ムササビ科動物の糞		① <i>Trogopterus xanthipes</i> Milne-Edwards および ② <i>Pteromys volans</i> Linné とそれらの近縁種	Sciuridaeリス科	① ミミケモモンガ ② タイリクモモンガ	○	pyrocatechol (LD ₅₀ = 100 mg/kg bw, mouse, oral)				A	腐薬であるpyrocatecholの含有が報告されたことがあり、基原動物が採集したのものによって毒性の高い成分が含まれる可能性があるため、使用に注意が必要である。
270	シベント	ジャコウネコ、ウビヨウ、英名 civet	香囊腺から得た分泌液		<i>Fiverricula indica</i> Desm.	ジャコウネコ科、ジャコウネコ亜科	ジャコウネコ	○			irritation data, cyclopentadecanone 500 mg, skin, rabbit moderate effect oral, rat LD ₅₀ >5g/kg (muscone)		D	成分に関する安全性データが少なく、判断材料が乏しい。
271	ジャコウ	ジャコウジカ、英名 musk	雄の麝香腺から得た分泌物	ワシントン条約で輸入が禁止されている	<i>Moschus moschiferus</i> L.	ジャコウジカ科	ジャコウジカ	○	3α-ureido-androst-4-en-17-one and 3α-ureido-androst-4-en-17β-ol, Androstane alkaloids		RETECS oral, rat LD ₅₀ >5g/kg, i.p. mouse LD ₅₀ 270mg/kg, i.v. mouse LD ₅₀ 152 mg/kg, 以上 <i>Mexichus kerone</i>		A	指定医薬品相当のandrogenic compoundsを含む。
272	ジャドク	ヘビ、英名 Snake venom	蛇毒		烏蛇毒(タイワンコブラ毒)、蝮蛇毒 (<i>Trimeresurus</i> sp. ハブ(黒蛇毒) 他			×	神経毒、心臓毒、筋肉毒、出血毒等		<i>Trimeresurus</i> で28件 LD ₅₀ i.p. mouse 3.6mg/kg, S.c. 4.6mg/kg, i.v. 0.7mg/kg 他多数、oralのdataはなし		A	毒薬相当である。

273	シロエウ	カクシクワツリミミズ英名 earthworm, lumbricus	全形	①Pheretima aspergillum Perrier 又はその他近縁動物 ②Allobophora caliginosa trapezoidis Ant. Drages ③Pheretima asiatica Michaelsen, P. aspergillum E. Perrier ④P. communissima, Goto et Hatai	①③ Megascolicidae フトミミズ科 ②Limbrodidae ツリミミズ科 ④ Lumbricomorpha 毛足類ミミズ類	根紐 ②土地用 カップ ショクワツリミミズ ③広地用 ④ミミズ	局外生規	有毒成分があり、7-8月の受胎期には、此の毒性は最強となる。豚がこのミミズを食いとすると痲痺を起すとの記述が養液培養薬にある。	③P. aspergillum, mouse LD50 40.7mg/kg (投与方法不明) LD50 mouse 腹腔95-115mg/kg	B	局外生規に収載され、医薬品としての使用実態が多い。
274	センソ	シナヒキガエル英名 toad venom	毒腺分泌物	①Bufo gargarizans Cantor ②Bufo melanostictus Schneider	Bufoinae ヒキガエル科	①シナヒキガエル ②ヘビクワロヒキガエル	局方	強心性ステロイド成分bufalin cinobufalin他	bufalin LD50 0.74mg/kg i.v. mouse, 0.14mg/kg i.v. cat, cinobufalin LD50 0.18mg/kg i.v. cat他	A	向精神作用のあるbufotenine、毒葉相当のbufalin等を含む。
275	ゼンタイ	アブラゼミ クマゼミ 英名 cicada of cicada	蟬殻(せいかく)	①Cryptopsippana haitiana Fabricius ②Graptopsaltria nigrofasciata Motschulsky ③Cryptopsippana fascialis japonensis Walker (=C. japonensis Kato)	Cicadidae ゼミ科	①スジアカクマゼミ ②アブラゼミ ③クマゼミ	局外生規	N-acetyldopamine dimmers	LD50 > 10g/kg oral mouse, LD50 150mg/kg i.p. mouse	B	局外生規に収載され、また医療用の処方に配合されるなど、日本では、明らかに医薬品である。
276	胎盤<薬用草>	シガンヤ英名 placenta	ヒト胎盤	Homo sapiens L. の胎盤	Homonidae ヒト科	ヒト	製剤の原料?			A	特定生物由来製剤であり、専ら医薬品として扱われるべきである。
277	胆汁<胆嚢>	英名 Bear Bile	ウシ、クマ、ブタの胆汁・胆嚢	①Bos taurus domesticus Gmelin ②Ursus arctos L. ③Sus scrofa domestica Brisson	①Bovidae ウシ科 ②Ursidae クマ科 ③Suidae イノシシ科	②熊胆(ニウタ ン、熊の胆汁を乾 燥したもの) ○ ②のみ局方 収載	○ 中薬としての 使用実態		choleic acid sodium salt LD50 164mg/kg (mouse, ip), cholic acid LD50 330mg/kg (mouse, iv), deoxycholic acid sodium salt LD50 123mg/kg (rat, ip), deoxycholic acid LD50 130mg/kg, ursodeoxycholic acid LD50 310mg/kg (rat, iv) ①③は無毒との表記あり	B	我が国では医薬品としての使用実態がある。
278	カウ<馬室>	ウマ	胃腸結石	Equus caballus L.	Equidae ウマ科		x 中薬としての 使用実態			D	成分不詳であり、判断材料がない。
279	ボウチュウ<蚊>		全虫	Tabanus bivittatus Mats. T. trigramus Coq. T. chrysaerus (chrysaus) Loew.	Tabanidae アブ科	蚊、虻	○ 国内流通有、 中薬としての 使用実態		有毒との表記あり	D	成分不詳であり、判断材料がない。
280	リュウコウ<竜骨>	英名 Longgu	古代哺乳動物の骨の化石	①Cervus pumjabiensis Brown ②Palaeoloxodon namadicus (Falc. & Cauti)	①Cervidae シカ科 ②Elephantidae ゾウ科	○ 局方収載、中 薬では内服、 外用及びで 用い、			calcium phosphate LD50 3,986mg/kg (rat, oral), calcium carbonate LD50 6,450mg/kg (rat, oral) 無毒、あるいは小毒との表記あり	B	局方収載生薬で漢方処方にも配合されており、重要生薬であることから専ら医薬品とすることが望ましい。

(化学物質等)

No.	名称	他名	薬用部位等	備考	学名	科名	基原科名等	医薬品としての使用実態	アルカロイド、毒薬劇薬指定成分	麻薬・向精神薬・覚せい剤作用	毒性データ	B/S handbook	評価	評価理由
284	アスピリン	英名 aspirine						局方 USP, EP, BP 収載					A	解熱鎮痛消炎剤である。
285	アミラーゼ	英名 amylase						○					A	消化酵素である。
286	アラントイン	英名 allantoin		CAS No. 97-59-6				○ USP, EP, BP 収載					B	外国の医薬品として多くの使用実態がある一方、食経験がなく、経口での安全性を示すデータはない。
287	アロイン	ハルババロイン 英名 aloin		アロエの成分 CAS No. 1415-73-2				○ アロインを主成分とするアロエとアロエ末が局方収載			LD50 = 200 mg/kg bw (mouse, i.v.) LDLo = 500 mg/kg bw (cat, oral)		A	専ら医薬品であるアロエの共有加成分であり、下剤として用量に注意が必要である。
288	アンジオテンシン	英名 angiotensin						○ (JAN)					A	強力な血圧上昇作用を有するホルモン(オータコイド)である。
289	アンドロステノン	英名 androstenedione						○					A	男性ホルモンである。
290	インベルターゼ	英名 invertase											A	シロ糖を加水分解する消化酵素である。
291	AMT	α-メチルトリプタミン						x		Yes			-	すでに麻薬に指定されており、リストから削除するべきである。
292	N-ニトロソフェニラミン							x					A	フェニルアラミンの機能を意図して合成されたフェニルアラミン類似体である。
293	エフェドリン	英名 ephedrine						局方 USP, EP, BP 収載		Yes			A	覚せい剤原料である。
294	カオリン	英名 kaolin		CAS No. 1332-58-7				局方 USP, EP, BP 収載			TDL0 = 125 mg/kg bw (rat, intracerebral)		B	日本薬局方および諸外国の局方に収載され、医薬品として使用実態がある。
295	カタラーゼ	英名 catalase											A	異化酵素の一種である。
296	γ-オリザノール	英名 γ-oryzanol		CAS No. 11042-64-1 植物ステロール及びトリテルペノール のフェニルプロパノ酸エステル。				○			LD50 > 25 g/kg bw (rat, oral), LD50 > 25 g/kg bw (mouse, oral), LD50 = 100 mg/kg bw (rat, skin), LD50 = 100 mg/kg bw (guinea pig, skin)		A	自律神経経路活性剤として用いられる医薬用医薬品成分であり、眠気、嘔吐、下痢などの副作用が認められている。
297	グアイフェネシン	英名 guaifenesin						局方					A	医療用鎮咳去痰薬の成分である。
298	グルタチオン	英名 glutathione		化合物名 N-(N-L-γ-Glutamyl-L-cysteinyl)glycine				○			L-glutathione toxicity oral mouse LD50 5g/kg, i.v. rabbit LD50 > 2g/kg, reproductive effect; oral rat TDLo 1250mg/kg			中毒症状の解毒剤として重要な医薬品であり、国内外での使用実態がある。他方、経口での安全性には特に問題があるとは考えられない。

328	ヨウキセキ<陽起石>		鉱石	Actinoliteまたは陽起石 類Actinolite asbestosの鉱 石、雄石を含む角閃 石 Hornblendeの一種、透 閃石 Tremolite、透輝閃石 (綠陽起石) Actinoliteの別 あり陽起石								Actinolite, TDLo 50 mg/kg ip rat, calcium oxide LD50 3,059mg/kg (mouse, ip), magnesium oxide TCLo 400mg/m3 (human, inhalation), silica LDLo 40 mg/kg (mouse, ip)	ILOの定著するアスベストの一つであり、労働安全 衛生法において使用禁止の対象となっている。医 薬品としての使用実態はあるが、労働安全衛生法 との関係は判断できない。	
329	ラクターゼ	英名 lactase												A 乳糖を加水分解する消化酵素である。
330	リパーゼ	英名 lipase												A 脂質を加水分解する消化酵素である。
331	ルンブルキナーゼ	英名 lumbrokinase		<i>Lumbricus rubellus</i>										B 国外で医薬品として認識されており、安全性に関 するデータがないので、専ら医薬品とすべきであ る。

評価基準

- A: 安全性に十分な配慮が必要であり、専ら医薬品と考えられる。
- B: 国内外を含め医薬品としての使用実態があり、専ら医薬品と考えられる。
- C: さらに調査を続ける必要がある。
- D: 現在のところ判断データがない。
- E: 医薬品としての使用実績が乏しく、含有成分等からも食薬区分の見直し対象となり得ると考えられる。

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻、号	ページ	出版年
合田幸広	食薬区分と脱法ドラッグ	漢方薬・生薬 薬剤師講座テキスト	I	114-128	2005

雑誌

R. Kikura-Hanajiri	Simultaneous determination of 19 hallucinogenic tryptamines/ β -calboline and phenethylamines using GC-MS and LC-ESI-MS	<i>J. Chromatogra. B.</i>	825	29-37	2005
安食菜穂子 他	味認識装置による漢方処方味の評価に関する研究 (第1報)	<i>Natural Medicine</i>	59(4)	164-170	2005
Ik Hwi KIM 他	Two Phenylpropanoid Glycosides from <i>Neopicrorhiza scrophulariiflora</i>	<i>Chem. Pharm. Bull.</i>	54(2)	275-277	2006
安食菜穂子 他	味認識装置による漢方処方味の評価に関する研究 (第2報) 葛根湯に関する検討	生薬学雑誌	60(1)	21-27	2006

食薬区分と脱法ドラッグ

国立医薬品食品衛生研究所 生薬部 部長

合田 幸広

1. 食薬区分

食品衛生法では、食品とは薬事法に規定する医薬品（及び医薬部外品）以外の全ての飲食物であると規定している。従って、日本では、カナダのNatural Health Productsのような第三のカテゴリーはなく、飲食物は、食品衛生法か薬事法のどちらかで規制され、それぞれ食品と医薬品に分類される。この法的な規制の境界線を「食薬区分」と言う。

2. 区分の四要素

食薬区分は、区分の四要素と言われる成分本質（原材料）、表示（効能効果）、形状（剤形）、用法用量で判断される。このうち、成分本質だけで一義的に医薬品と判断されるものは、局長通知の別添である「専ら医薬品として使用される成分本質(原材料)リスト」（医薬品の範囲に関する基準の一部改正について、平成14年11月15日 医薬発第1115003号）に記載されている。現在、全328成分、うち植物由来261成分（センナ葉、マオウなど）、動物由来22成分（蛇毒、センソなど）、その他45成分（アスピリン、γ-ヒドロキシ酪酸など）が同リストに記載され、別に成分本質だけでは一義的には医薬品と判断しない、いわゆる「非医リスト」も例示されている。これらのリストに記載されていない成分本質は、厚生労働省医薬食品局監視指導・麻薬対策課に、判断を求めることができ、これらの判断は定期的に公表されることになっている。

3. 食薬区分の判断

成分本質だけで一義的に医薬品となるものは、リスト化され（別表参照）、その考え方も、以下のように公表され、ている。

「専ら医薬品として使用される成分本質(原材料)リスト」の考え方

(1) 専ら医薬品としての使用実態のある物

解熱鎮痛消炎剤、ホルモン、抗生物質、消化酵素等専ら医薬品として使用される物

(2) (1)以外の動植物由来物（抽出物を含む。）、化学的合成品等であって、次のいずれかに該当する物。ただし、一般に食品として飲食に供されている物を除く。

① 毒性の強いアルカロイド、毒性タンパク等、その他毒劇薬指定成分（別紙参照）に相当する成分を含む物（ただし、食品衛生法で規制される食品等に起因して中毒を起こす植物性自然毒、動物性自然毒等を除く）

② 麻薬、向精神薬及び覚せい剤様作用がある物（当該成分及びその構造類似物（当該成分と同様の作用が合理的に予測される物に限る）並びにこれらの原料植物）

③ 指定医薬品又は要指示医薬品に相当する成分を含む物であって、保健衛生上の観点から医薬品として規制する必要性がある物

注1) ビタミン、ミネラル類及びアミノ酸（別紙参照）を除く。ただし、ビタミン誘導体については、食品衛生法の規定に基づき使用される食品添加物である物を除き、「専ら医薬品として使用される成分本質(原材料)リスト」に記載される物とみなす。

注2) 当該成分本質（原材料）が薬理作用の期待できない程度の量で着色、着香等の目的のために使用されているものと認められ、かつ、当該成分本質（原材料）を含有する旨標ぼうしない場合又は当該成分本質（原材料）を含有する旨標ぼうするが、その使用目的を併記する場合等総合的に判断して医薬品と認識されるおそれがないことが明らかな場合には、「専ら医薬品として使用される成分本質(原材料)リスト」に記載されていても、医薬品とみなさない。

注3) 「医薬品的効能効果を標ぼうしない限り食品と認められる成分本質(原材料)リスト」に記載されている原材料であっても、水、エタノール以外の溶媒による抽出を行った場合には、当該抽出成分について、上記の考え方に基づいて再度検討を行い、「専ら医薬品として使用される成分本質(原材料)リスト」に記載すべきかどうか評価する。

(別添2)

○専ら医薬品として使用される成分本質（原材料）リスト

1. 植物由来物等

(例)

名称	他名等	部位等	備考
アオダモ	トネリコ	樹皮	
アラビアチャノキ		葉	
アラビアモツヤク		全木	
アルニカ		全草	
アロエ	キュラソー・アロエ・ケープ・アロエ	葉の液汁	根・葉肉は「非医」、キダチアロエの葉は「非医」
イチイ	アララギ	枝・心材・葉	果実は「非医」
イヌサフラン		種子	
イリス		根茎	
イレイセン	シナボタンヅル	根・根茎	葉は「非医」
インチンコウ	カワラヨモギ	花穂・帯花全草	
インドサルサ		根	
インドジャボク属	インドジャボク・ラウオルフィア	根・根茎	
インドボダイジュ		樹皮	
インヨウカク	イカリソウ	全草	
ウmanosズクサ属		全草	
ウヤク	テンダイウヤク	根	葉・実は「非医」
ウワウルシ	クマコケモモ	葉	
ウンカロアボ		根	
エイジツ	ノイバラ	果実・偽果	
エニシダ		枝・葉	花は「非医」

名称	他名等	部位等	備考
エンゴサク	エゾエンゴサク	塊茎	
エンジュ	カイカ カイカク	花・花蕾・果実	葉・サヤは「非医」
オウカシ		根・葉	
オウカボ	キンゴジカ	全草	
オウギ	キバナオウギ ナイモウオウギ	根	茎・葉は「非医」
オウゴン	コガネバナ コガネヤナギ	根	茎・葉は「非医」
オウバク	キハダ	樹皮	葉・実は「非医」
オウヒ	ヤマザクラ	樹皮	
オウレン	キクバオウレン	根茎・ひげ根	葉は「非医」
オシダ		根茎・葉基	
オノニス		根・根茎	
オモト		根茎	
オンジ	イトヒメハギ	根	
カイツウ(海葱)属		鱗茎	カイツウ(海草)の全藻は「非医」
カイトウヒ		樹皮	
カガミグサ		根	
カゴソウ	ウツボグサ	全草	
カシ	ミロバラン	果実	
カシュウ	ツルドクダミ	塊根	茎・葉は「非医」
カスカラサグラダ		樹皮	
カッコウ	カワミドリ(パチヨリ)	地上部	
カクコン	クズ	根	種子・葉・花・クズ澱粉は「非医」
カバ	カバカバ カワカワ シャカオ	全草	
カラバル豆		豆	
カロコン	オオカラスウリ(キカラスウリ) シナカラスウリ	根	果実・種子は「非医」
カロライナジャスミン		全草	
カワラタケ		菌子体	子実体は「非医」
カンショウコウ		根	
カントウカ	フキタンボボ	花蕾	葉・幼若花茎は「非医」
カンボウイ	シマハスノハカズラ	茎・茎根	
カンラン		果実	
キササゲ	シジツ・トウキササゲ	果実	
キツビ	タチバナ	果皮	葉は「非医」
キナ	アカキナノキ	根皮・樹皮	
キョウカツ		根・根茎	
キョウニン	アンズ クキョウニン ホンアンズ	種子	カンキョウニンは「非医」
キンリュウカ	ストロファンツス	種子・木部	
グアシャトンガ		葉	
クジン	クララ	根	
クスノハガシワ		樹皮	
グラビオラ	サーサップ(トゲバンレイシ) オランダドリアン	種子	果実は「非医」
グリフォニア・ シンプリシフォリア		種子	
ケイガイ		全草	
ケシ		全草(発芽防止処理され た種子・種子油は除く)	発芽防止処理された種子・種子油は 「非医」
ケンゴシ	アサガオ	種子	葉・花は「非医」
ゲンジン	ゴマノハグサ	根	
ゲンチアナ		根・根茎	花は「非医」
ゲンノショウコ		地上部	

名称	他名等	部位等	備考
コウブシ	サソウ ハマスゲ	根茎	
コウフン	コマントウ	全草	
コウボク	ホウノキ	樹皮	
コウホン		根・根茎	
コオウレン		茎・根茎	
ゴールドデンシール	カナダヒドラスチス	根茎	
コケモモヨウ	コケモモ	葉	果実は「非医」
ゴシツ	イノコヅチ ヒナタイノコヅチ	根	
ゴシュユ	ホンゴシュユ	果実	
コジョウコン	イタドリ	根茎	若芽は「非医」
コパイーバ	Copaifera officinalis	樹脂	コパイーバ (Copaifera langsdorffii) の樹液は「非医」
ゴバイシ	ヌルデ	囊状虫瘻	
コハク		古代マツ科植物樹脂の化合物	
ゴボウシ	ゴボウ	果実	根・葉は「非医」
ゴミン	チョウセンゴミン	果実	
コロシントウリ		果実	
コロンボ		根	
コンズランゴ		樹皮	
サイコ	ミシマサイコ	根	葉は「非医」
サイシン	ウスバサイシン ケイリンサイシン	根・根茎	茎・葉は「非医」
サビナ		枝葉・球果	
サヨウ	オシャクジタケ	全草	
サルカケミカン		茎	
サルサ	サルサバリラ サルトリイバラ	根	葉は「非医」
サワギキョウ		全草	
サンキライ	ケナシサルトリイバラ ドブクリョウ	塊茎・根茎	葉は「非医」
サンショウコン	ホオズキ	根	食用ホオズキの果実は「非医」
サンズコン		根・根茎	
ジオウ	アカヤジオウ カイケイジオウ	茎・根	
ジオン		根・根茎	
ジギタリス		葉	
シキミ	ハナノキ	実	
ジコッピ	クコ	根皮	果実・葉は「非医」
シコン	ムラサキ	根	
シツリシ	ハマビシ	果実	
シテイ	カキ〈柿〉	果実の宿存がく(へた)	渋・葉は「非医」
シャクヤク		根	花は「非医」
ジャショウ	オカゼリ、オカブジラミ	果実・茎・葉	果実はジャショウシともいう
シュクシャ	ジャジン〈砂仁〉/シュクシャミツ	種子の塊・成熟果実	ジャジン〈沙参〉の根は「非医」
ショウブコン	カラムスコン/ショウブ	根茎	
ショウボクヒ	クヌギ	樹皮	
ショウマ	サラシナショウマ	根茎	アカショウマの根は「非医」
ショウリク	ヤマゴボウ、Phytolacca esculenta	根	ヤマゴボウ (Cirsium dipsacolepis) の根は「非医」
シンイ	コブシ/タムシバ	花蕾	
ジンコウ		材・樹脂	
スイサイ	ミツガシワ	葉	
スカルクヤップ		根	根以外は「非医」
スズラン		全草	
セイコウ	クソニンジン	帯果・帯花枝葉	